

## 2021（令和3）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 福祉国家の対象から排除された人々の形づくる生には、医師患者関係や身内間とは異なる、相互的ケアによる社会性があるということ。

（参 考）

以下の「解答例」は、「朝日新聞デジタル」（2021年8月12日付，18面

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15007722.html>）に記載された、本文の筆者である松嶋健氏自身によるものである。

治療者と患者という一元的な関係でも、もともと近い家族との関係でもなく、H I V感染者・エイズ患者は お互い見知らぬ間柄だったにもかかわらず、苦しみを軽減し問題を解決するために世話をしたり知や実践を共有したりすることで、非感染者も含めた独自の関係性が生まれていったということ。

\*筆者自身は、上記の内容を考えて、自著で傍線部（ア）のように表現したことになる。

もちろんこのままでは文字数は約 130 字に至り、解答欄五行は要してしまうが、今は措く。それよりも、傍線部のママ、もしくは、具体例のママの使用、さらに構文上の不適切さ、冗長な表現など、この解答例では合格答案とまでは言えまい。したがって、東大の要求する「合格答案」とは、上記の「筆者自身の考え」とほとんど同じ内容を、より簡潔かつ的確な表現でまとめた解答であるということになる。

\*この事例によっても、「本文内容が本質的に読めていたら、問題は解ける」などと軽々しく言えないことは明らかである。「筆者の解答＝解答モデル」ではない。

- 二 公的サービス内に、国家による管理と統合の論理とは異なる、苦しむ人々の生を支える共同的で公共的な論理が出現したということ。

\*イタリアの精神障害者に関する具体例について書くのではなく、本論・一般論の内容を解答すること。

- 三 顧客が欲望に従い、商品やサービスを主体的に選択するという考え方は、個人の孤独な自己責任と欲望の自覚を前提とするということ。

\*「選択の論理」「個人主義」の二項は、とくに現代の医療に影響を与えているものとはいえず、医療に限った概念ではない。したがって、「医療」「患者」を解答に用いない。

四 国家や個人に基づく論理ではなく、ケアの論理に基づく生が出現した。感覚や情動を重視し、痛み苦しむ身体を世話し調えることを主眼とするケアは、医師患者間に限らず、関わるすべてから成る共同的で協働的な作業であり、新たな生の社会性に通じるということ。(一二〇字)

五 a 診察      b 諦      c 羅針